

第4次白岡市男女共同参画プランの施策推進のための取組に係る

令和元年度の実績報告の見方

この実績報告には、直接的に男女共同参画社会の形成を目的とするものだけでなく、一見、男女共同とは無縁であるような取組・事業であっても、結果的に男女共同参画社会の形成に影響を及ぼす場合もありますので、掲載しています。

1つの取組・事業でも、複合的な課題を解決するために実施しており、何度も同じ取組・事業が掲載されている場合があります。その場合、ある視点から見ると達成度評価がAであっても、別の観点から見ると達成度評価がCというように、評価が分かれるものもあります。

- 1 「令和元年度実績報告」には、取組・事業及びプランの「具体的施策」・「事業内容」に対応するように、実施した内容、効果、日時、意識・配慮、反省点、参加者数等を記入しています。また、未実施の場合は、その理由を記入しています。
- 2 男女共同参画の観点から推進することを「意識・配慮」したかを下記によりチェックし、意識・配慮できたものは「○」を記入しています。

	男女共同参画に対する意識・配慮度チェック項目
①	事業の企画・実施にあたり、男女共同参画を意識した。
②	女性・男性双方にとって、利用・参加しやすいよう配慮した。

- (1) これらの項目は、固定的な性別役割分担や性別による偏りを助長しないか、男女双方に等しく便益（便利で利益があるかどうか）が及ぶかなどを意識・配慮したかチェックする項目です。
- (2) このチェック項目が馴染まない場合は、「－」となっています。

チェック例

①事業の企画・実施にあたり、男女共同参画を意識した。

- ・マタニティセミナーに、妊婦だけでなく、夫やその家族も参加可能とした。
- ・公民館講座や高齢教室などのカリキュラムに男女共同参画を組み入れた。
- ・それまで女性が参画していなかった分野に、女性を積極的に登用し、意見を取り入れた。
- ・今まで男性（女性）ばかりが参加していたので、女性（男性）の参加を増やすために、あえて女性（男性）限定とした。 など

②女性・男性双方にとって、利用・参加しやすいよう配慮した。

- ・講座等の開催にあたり、参加しやすい日程・時間帯に配慮した。
- ・インターネットの活用で、情報を得やすく、申請等をしやすいようにした。
- ・今まで男性（女性）ばかりが参加していたので、女性（男性）が参加しやすい内容に工夫した。 など

【「意識・配慮度」の評価について】

日ごろの業務でも、例えば広報紙などに使用するイラストであっても、女性がエプロンしているイラストでなく、男性がエプロンをしているイラストでも良いと考えるように、ちょっと問題意識を持つことで「男女共同参画」の視点は生まれると考えます。

そういう意識や配慮をもって取組・事業を企画・立案、実施していくための評価基準として、「意識・配慮度」の項目を設けています。

3 実施した取組・事業について、男女共同参画の視点からの「達成度」について、下記により評価し、その段階を記入しています。

評価段階	達成度評価
A	成果をあげることができた。
B	概ね成果をあげることができた。
C	成果をあげるまでには至らなかった。
D	実施には至らなかった。

- (1) それぞれの取組・事業において、男女共同参画の視点から「どのくらい達成できたか（成果があったか）」を評価するものです。
- (2) 2の男女共同参画からの意識・配慮度チェック自体が馴染まなかった場合は、3の男女共同参画の視点からの達成度評価も馴染まない可能性があります。その場合は、「取組・事業に対する達成度」として、いずれかの評価段階を記入しています。なお、それぞれの達成度を踏まえた今後の方向性（例）は、以下のとおりです。

段階	達成度を踏まえた今後の方向性（例）
A	目的を達成したものの、よりレベルを上げた次の目標を設定しさらに進めていくものなどがあります。
B	成果はそれなりにあるものの、まだ達成に至っていないため、これからも進めていく必要があるものなどがあります。
C	これからも進めていく必要があるもの、見直して軌道修正するものなどがあります。
D	諸般の事情で計画だけで終わってしまったもの、世の中の流れや変化により当初計画していたものが不要でなくなったもの、取組・事業そのものが全く新しいものに変わってしまったものなどがあります。

この第4次男女共同参画プランは、平成29年度から33年度までの5年間で推進していくものです。

達成度評価が「D」の取組については、今後、改善に努めてまいりますので、みなさまのご協力をお願いいたします。